

## 高齢者の困りごとに 対応する支援サービスは

矢野 隆行

### 児童虐待発生予防 対策の推進は



問 介護保険サービスなどのような大掛かりなサポートではなく、ひとり暮らしの高齢者のかつとした困りごとに対応する支援サービスは。

答 日常生活で困っていることなどを、区民等の協力を得て解決するお手伝いは、高齢者や障がい者の不安を解消し、地域で安心して自立した生活への支援になるが、取り組みは。



相談内容に  
応じ対応

田中市民健康福祉部長

答 「できるだけ早く何とかしてほしい」と感じる、ちょっとした困りごと相談は、高齢福祉課、地域包括支援センターに寄せられ、相談内容に応じ対応。さらに他の取組みを参考に、きめ細かく対応していく。

答 日常生活で困っていることなどを、区民等の協力を得て解決するお手伝いは、高齢者や障がい者の不安を解消し、地域で安心して自立した生活への支援になるが、取り組みは。

## 虐待発生予防を推進

田中市民健康福祉部長

その他の質問

答 生活不安、育児不安等を抱える養育の困難な家庭については、乳児を中心とする訪問事業である「ここにちは赤ちゃん事業」として全戸訪問を実施し、不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行っている。

問 平成20年3月以降、野洲病院の産婦人科に専門医は確保できるのか。

答 今後の産婦人科、女性専門外来の存続は、国・県・関係機関に要望している。現状復帰できるよう野洲病院に要望・要請している。

答 指摘の現場は至近距離で並行する市道小篠原上屋線とJRびわこ線が市道と平面交差している。構造的危険性を抱えた交差点であり安全性の高い解決策は立体交差である。

島村都市建設部長

## 安全確保に向け取り組む

島村都市建設部長

その他の質問

この踏切を利用される人はJRの拡幅または地

る。

この踏切を利用される人はJRの拡幅または地

域の踏切は安心して通れることを考えるが。

市内JRびわこ線で一番危険な横断歩道は上屋踏切と言われている。踏切通行量は大型車両から自転車まで合わせ一日1300台余、歩行者は約200名でほとんどが小学生。小堤方面からの中学生も自転車通学で利用している。この場所での交通事故が多発し、数名の方が亡くなっている。

下道の設置を待ち続けている。付近住民はこの踏切が安心して通れることを願っている。交通安全対策への取り組みは。



## JRびわこ線上屋(あたらし) 踏切の安全対策を

中島一雄



### JRびわこ線上屋(あたらし) 踏切の安全対策を

中島一雄

# 小・中学校にAEDの設置を

梶山幾世よ

問 庁舎、コミュニティ

センター等にAEDが設置されたが、小・中学校への設置が遅れている。

少年野球の試合中、息子さんを亡くされた母親

が、「AEDがあれば息

子もきっと助かっていたに違いない」と、全国の運動施設にAEDの設置をと、呼びかけチラシを配つておられる姿に胸が

## 早期設置に取り組む

南教育部長

答 学校施設について、

予算厳しい状況にあるが12月の補正予算で設置を検討する。

各中学校では消防署による救命講習会の中でAEDの講習をしている。指導者の講習は、水泳

## 事業所間の防災協力・連携を

### 支援協力へ取り組む

北口総務部長

問 災害時の地域防災力の強化のため、地域に所在する事業所に対し、防災協力活動を求める施策が重要である。

静岡県袋井市ではイオングルとの防災協力で、災害時に応急生活物資供給や一時避難地の支援に関する協定を締結して一層

が、強化を図っている。  
本市も事業所との協力連携が必要と考えるが。

問 創設

その他他の質問

答 景観を考えたまちづくりを電柱の地中埋設化地域一番景観大賞の景観法の中で検討する



AED (自動体外式除細動器)

痛んだ。

地域の運動施設として最も利用されている小・中学校へ早急に(12月補正) AEDを設置し、講習すべきと考えるが。



# 年末ごみ収集の延長を

西本俊吉

問 本市でのごみ収集が

スタートしてから約40年、この間には環境問題・資源ごみのリサイクル等から、現在の分別収集の体制が確立してきた。

市民も複雑化した分別

収集に理解を示し、日々決められたルールに従い、集積場を利用している。

毎年年末になると家庭では大掃除や正月の準備などから、必然的にごみの量が増大する。

しかし収集は毎年12月28日が最終日。この日には年末年始休暇に入っている労働者等は、製造業などの一部に限られ、大半は30日または大晦日まで働いておられるのが実態。

各家庭にごみをストックしておく場所が少なくゴミを抱えたまま新年を迎えることとなる。

そして、年始めの最初の収集日には、集積場に入り切らないほどの大量

のごみが出される、この状態が毎年繰り返されている。ごみカレンダー作成時に市民全体が気持ち良く新年を迎えるように、年末における可燃物ごみの特別収集を。



## 収集日程の調整・工夫を図る

山田環境経済部長

問 期間の延長は市民の負担増となり、直ちに実施することとは困難と考える。



市内のごみ収集風景

答 市民に対して広報によりごみ減量と年末時には、早くから出されるよう普及啓発を行っていく。

年末年始における収集期間の延長は市民の負担増となり、直ちに実施することは困難と考える。

今後、ごみカレンダー



の作成時に、集積場での収集間隔が長くなりすぎないよう年末年始の収集日程の調整と工夫を図る。